

## 古代都城の祭祀

―平城京宅地の祭祀遺物と使用者層―

松吉 祐希

一、はじめに

平城京では、様々な祭祀が行われていた。この平城京における祭祀の考古学的な研究は、条坊道路側溝での祭祀遺物出土事例を中心に進められてきた。しかし、道路側溝からは、時期や行為主体者などの詳細な情報を得ることができないために、祭祀遺物出土事例を提示し、その解釈を文献資料に頼るにすぎなかった。そのため、平城京での祭祀の実態はいまだ不明瞭な部分が多い。

そこで本発表では、道路側溝でなく宅地を対象として、平城京の祭祀の実態にせまることを目的に、平城京での祭祀遺物の使用者層を検討したい。

まず、平城京の宅地の中でも、層位や出土木簡から時期変遷や居住者・使用者の変遷も明らかとなっている平城京左京三条二坊の一・二・七・八坪（長屋王邸跡）で出土する祭祀遺物の種類を時期ごとに明確にする。平城京左京三条二坊では、祭祀遺物の中でも木製品と土製品において、時期的な出土傾向の変化がみられる。その変化の意味を、平城京全体の宅地における祭祀遺物の分布から捉える。

二、平城京左京三条二坊（長屋王邸跡）と祭祀遺物

平城京左京三条二坊は、A―G期の七時期に分けられる。出土文字資料や遺構により、A・B期を長屋王邸、C期を光明皇后宮、D―G期を官衙や邸宅のあった時期と想定できる。A―C期には四町の広大な面積を有し、大規模建物が主であったが、D期以降は区画が細分され小規模建物に変化する。

扱う遺物は、木製・金属製・土製の模造品（形代）などの主に都城で出土する祭祀遺物である。長屋王邸跡では、三一例の祭祀遺物出土例があり、木製品と土製品とで出土傾向の時期的な変化を捉えることができた。

すなわち、A―C期には、多種多量の木製品が出土するが、土製品の出土例は1例と、極めて少ない。しかしD期以降になると、木製品の出土例は大幅に減少し、土製品の出土例が急増する。つまり、A―C期とD期以降では、木製品と土製品の出土の割合が逆転する現象が生じる。

三、平城京宅地と祭祀遺物

長屋王邸跡（平城京左京三条二坊）での木製品と土製品の出土傾向の顕著な変化が明らかとなった。この変化のもつ意味を、平城京全体における宅地内の出土祭祀遺物の分布から検討したい。

祭祀遺物出土例は現在、一〇三例一二八地点を現在集成している（長屋王邸含まず）。その中で、長屋王邸で出土傾向の変化をみせた木製品・土製品出土事例は四十六例六十八地点である。

木製品のうちで、人形は最も出土例の多い遺物であり、他の木製品と共伴例も多い。また、土製品の中では土馬の出土例が顕著で、他の土製品との共伴例が多い。そのことから、人形と土馬をそれぞれ木製品・土製品の代表的な遺物として、平城京内での分布を検討する。

その結果、平城京宅地での人形出土例の分布は平城京三条以北までの限られた範囲で出土するのに対し、土馬は一条から九条までの平城京全体に広く分布することが分かった。

この平城京の宅地は、官人の位により、官からの位置や広さの規定があった。文献資料や発掘調査の結果から、平城京では、五位以上の貴族の宅地は五条大路よりも北に位置し、広さも一町以上と考えられる。このような宅地班給事情を踏まえると、人形をはじめとする木製品は平城宮に近い三条以北に分布することから、とくに高位である貴族邸宅で使用廃棄されたといえることができる。反対に、土馬をはじめとする土製品は平城京全体に分布することから、ひろく一般京戸の宅地でも用いられている。このことから、木製品を用いた祭祀は貴族を中心として行われ、土製品を用いた祭祀は一般民衆までひろく行われたと考えられる。

#### 四. おわりに

―長屋王邸跡での祭祀遺物出土傾向のもつ意味―

長屋王邸跡（平城京左京三条二坊）では、長屋王邸期A・B期と光明皇后宮C期という多種多量の木製品が使用廃棄された。D期以

降になると、木製品の代わりに、土製品が台頭する。

この変化のもつ意味として、平城京の宅地における土製品と木製品の出土分布から、それぞれの祭祀遺物の使用者層の差異を指摘できる。すなわち、長屋王や光明皇后の邸宅・宮（A―C期）という高位者の邸宅として機能していた際には、主に木製品を祭祀に使用していた。そして、小区画の邸宅や官衙（D期以降）というA―C期よりも下位と考えられる者が居住・使用した際には、木製品は頻繁に使用されず、土製品を主に使用したといえることができる。

#### 二〇二〇年度早稲田大学史学会大会公開講演会

東日本の旧石器時代を考える

―斧を持つ集団の遊動生活―

長崎 潤一

酸素同位体ステージ（OIS）による時期区分によると、後期旧石器時代前半期はOIS 3の移行期（44,000～37,000BP）から前期寒冷期（37,000～27,000BP）にあたるといえる。つまりOIS 3の寒冷期に向かう時期ということである。日本列島ではこの後期旧石器前半期に多くの遺跡で刃部を磨いた石斧が出土する。

日本旧石器時代研究の黎明期である一九四九年の群馬県岩宿遺跡